# 日本学術会議と国内の学協会連合等との連携 一人文社会科学系学協会男女共同参画 推進連絡会—

窪田幸子(芦屋大学)

科学者委員会学協会連携分科会令和4年7月12日

# 1 ギースの設立まで一学術会議での働き

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 2017年設立

ギースGEAHSS: Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences

1 第一部での連絡会設立への試み

<u>2013年4月2日</u>:人文社会科学系諸学会男女共同参画連絡会設立準備会初回会合(於 学術会議会議室,代表 辻村みよ子,江原由美子,呼びかけ人有志22名参加)

男女共同参画団体の代表に集まってもらう

社会学ジェンダー研究分科会中心に その後も会合複数回、

2014年5月31日:学術フォーラム「男女共同参画は学問を変えるか?」 (於 学術会議講堂,上野千鶴子他登壇者16名,参加者140名)

⇒組織化に至らず

## 1 ギースの設立まで一学術会議の働き

②総合ジェンダー分科会(第一部付置)の役割

2015年6月8日文部科学大臣通知

2015年8月24日:学術会議第一部に総合ジェンダー分科会設置(10分野の代表) (設立 世話人 井野瀬久美恵) 人文社会科学系学協会を緩やかにつなぐ役割

- \*「6.8通知」を契機に、人文・社会科学系の振興、「横の連帯」の役割
- \* 女性・若手研究者支援に必要な数値化・可視化
- \* ジェンダー視点を持つことが研究にとってプラスであると捉える必要性
- →各専門領域・学問・研究の質の向上、学会の今後の展望と、ジェンダー平等との関係をevidence-basedで可視化する。 =調査の必要性

無意識のバイアス(unconscious bias)の存在を意識化すること

☆男女共同参画学協会連絡会へのヒヤリング⇒これをモデルとして

ギースを組織した。

## 2 ギース第1,2期

- 2017年5月21日:ギース発足会合(@一橋大学、日本哲学会会場 →以後、アウトリーチ活動として展開)
- 2017年9月29日:学術会議でのフォローアップ会合(加盟4団体)
- 2017年12月16日:公開シンポジウム「人文社会科学分野の男女共同参画を目指して」 (@ 奈良女子大学、日本ジェンダー史学会、加盟20団体)
- 2018年2月27日:学術会議総合ジェンダー分科会とギースの第 1回連携会議(@学術会議、加盟37団体)
- 2018年3月31日:公開シンポジウム「人文・社会科学系学協会における男女共同参画をめ ざして」(@お茶の水女子大学)同時開催の第1回運営委員会(加盟46団体)で規約・組 織など最終決定・承認

第1回運営委員会を開催(加盟46団体)。規約・組織など最終決定・承認 現在74団体

第1期、第2期(2017年10月~2019年9月)

総合ジェンダー分科会が幹事

井野瀬久美恵委員長(総合ジェンダー分科会)、青野篤子副委員長(日本心理学会)

#### 3 主な活動内容

#### 規約 第3条(事業)

- 1 本連絡会は、前項の目的を達成するために、日本学術会議との連携を図りつつ、次の事業を行う。
- (1)学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティスの調査・公表
- (2)学協会におけるジェンダー統計に関する調査・分析・公表
- (3)シンポジウム、ワークショップなどの開催
- (4)学協会間の連絡網の構築と交流の促進
  - →その場としてのアウトリーチ活動
- (5)その他本連絡会の目的を達成するために必要な事業

## 4 4つの委員会

- \*大規模アンケート調査委員会――24期学術会議とギースの連携事業であり、 第一部総合ジェンダー分科会との「共同委員会」として進める cf. 理系の学 協会連絡会に学びつつ、違いを個性とする →分析の生かし方として、
- \*アウトリーチ活動委員会――諸学会とギースのインターフェイスであり、「ギース活動の可視化、問題点・意識の共有、解決に向けた取組み促進」等の要となる
- \*企画・運営委員会――学術会議との共催年次シンポジウムの企画・提言協力など、アウトリーチ活動以外のギースとしての活動・事業計画・提案・実行に当たる
- \*HP·広報委員会(委員長は事務局長を兼任)

### 5 これまでの役員構成

第1期、第2期(2017年10月~2019年9月)総合ジェンダー分科会が幹事 井野瀬久美恵委員長、青野篤子副委員長

第3期、第4期(2019年10月~2021年9月)幹事学会:日本心理学会 青野篤子委員長、吉原雅子副委員長(日本哲学会)

第5期、第6期(2021年10月~2023年9月) 幹事学会:日本哲学会吉原雅子委員長、藤井和佐副委員長(日本社会学会)

☆副委員長が次年度の幹事学会、幹事が2年後幹事学会